「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」選定団体(者)一覧

沖縄総合事務局

	都道府県（市町村）	選定団体(者)名	備考
1	沖縄県　今帰仁村	農業生産法人 今帰仁アグー	第１回選定
2	沖縄県　名護市	やんばる畑人プロジェクト	第２回選定
3	沖縄県　伊江村	有限会社 タマレンタ企画	第３回選定
4	沖縄県　糸満市	糸満市観光まちづくり協議会	第４回選定
5	沖縄県　南城市	株式会社 美らイチゴ	第５回選定
6	沖縄県　宮古島市	しろう農園株式会社	第７回選定
7	沖縄県　名護市	山原女性農業者の会	第８回選定
8	沖縄県　今帰仁村	株式会社沖縄ＵＫＡＭＩ養蚕	第９回選定【グランプリ】
9	沖縄県　石垣市	農業生産法人 有限会社 伊盛牧場	第10回選定【特別賞】
10	沖縄県　宮古島市	社会福祉法人みやこ福祉会	第10回選定
11	沖縄県　糸満市	糸満市農地・水・環境保全管理協定運営委員会	第11回選定
12	沖縄県　読谷村	島袋みさえ	第11回選定
13	沖縄県　糸満市	株式会社日本バイオテック	第12回選定【特別賞】

※別添概要は、選定当時の資料です。

㉓ 沖縄県　今帰仁村（なきじんそん）

農業生産法人 今帰仁（なきじん）アグー

～琉球弧（りゅうきゅうこ）の在来家畜資源を利活用した産業化～


在来豚


農業高校生の視察受入

経　緯

○伝統行事や食文化等、地域の多様性を保全するため、平成10年に11名で活動を開始。

○在来種の系統維持、地域産業の振興を目的として、平成15年、農業生産法人を設立。

取組内容

○伝統ある琉球豚の飼育と加工食品の販売。

○視察の受入や講演会を通じた琉球在来種の普及活動を実施。

活動の成果

○平成25年、琉球豚の生産拡大及び加工、販売促進について、6次産業化認定を取得。

○農畜産物や食の多様性を保全するとともに、在来家畜を利用した伝統ある儀礼行事を通じて集落の絆を強化。

今後の方針

○今後、在来家畜の遺伝資源の有効利用を促進するためにも、経済的に自立できる産業モデルを確立し、他地域に拡大していく。

○国際的なアピールや安全性の認知促進のため、スローフード協会の「味の箱船（アルカ）」を申請中。

農業生産法人 今帰仁アグー
沖縄県国頭郡今帰仁村字運天927番地　TEL:0980-56-3543　FAX:0980-56-2349

㉗やんばる畑人（はるさー）プロジェクト

「やんばるは美味しい!」を全国へ!

沖縄県 名護市

該当カテゴリー
- 「食」の提供・活用
- 6次産業化
- 農商工連携


やんばる畑人プロジェクトによるフードフェス



春の春祭名護漁協と連携



概　要

●地域の農家20名がレストラン、宿泊施設、加工企業等42店舗と連携し、農産物からスパイスまで全て地元やんばる産でおもてなし

●農家と飲食店の連携により、地元保育園児に対し「植え付け、収穫、調理、食べる」までの工程を実体験

●規格外の食材を利用した付加価値の高い商品の開発。また、マルシェや地域の食材を中心としたフードメニューで、地域資源の素晴らしさを実感してもらうフードフェスを開催

成　果

●新聞やTVの取材が多くなり、取組や地域資源を全国に発信

●大手コンビニエンスストアの弁当に食材が採用されるとともに、首都圏の百貨店の沖縄展のメインブースを担当

●フードフェスの売上げは、1.5倍に（H25-26）

㉚有限会社 タマレンタ企画

小さな「シマ」から日本一の島を目指して!

沖縄県 伊江村

該当カテゴリー

- 子ども（教育・体験）
- 雇　用
- 6次産業化



民泊で修学旅行生を受け入れ



島で昔から栽培している小麦に着目し事業展開





県内の企業と提携

概　要

●修学旅行を一般家庭で受入れ、農業・漁業や島民の暮らしを体験する民泊事業を展開

●島で昔から栽培している小麦に着目し沖縄そばの生麺加工事業に取り組み、民泊の食事に提供したほか、地元の産物の料理を提供する飲食店を開業

●地元小麦を使用したチップスなど新たな特産品の開発・販売や県内ビール会社と連携して、地元小麦を使用した発泡酒を発売

成　果

●民泊体験生徒数は、約2万7千人から約3万4千人に増加（H23-27）

●そばやチップスなどの小麦商品の売上げは、約4百万円から約2千2百万円と約6倍に増加（H25-27）
また、雇用が2名から17名と約9倍に増加（H24-27）

●小麦を使用したチップスは、「離島フェア2014」において金賞にあたる優良特産品優秀賞を受賞

31 糸満市（いとまん） 観光まちづくり協議会

祈りのまちの民泊で、つながる絆　太くなが～く

沖縄県 糸満市

該当カテゴリー　農 泊　インバウンド　子ども（教育・体験）



糸満市の活発な取組が地方TVで放映



沖縄の伝統文化を学ぶ農泊



収穫の喜びを味わうサマースクール

概　要

◆閑散期解消のため、サマースクールの受入を実施。
◆インバウンドや大人向け体験メニューの開発。
◆簡易宿所営業許可取得の指導や英語講習会など、受入農家をレベルアップ。
◆地元テレビ放送等において、農家も参加したPR活動を実施。

成　果

●修学旅行の受入者数は、約500人から約3,400人に増加（H24-H28）。
●年間を通しての活動の場の広がりにより農家の所得向上に貢献。
●メールやSNSを活用した情報発信等の広報活動が活発化。

〒901-0392 沖縄県糸満市潮崎町1-1　TEL.098-840-8135　FAX.098-840-8155
E-mail：sho-kou@city.itoman.lg.jp

32

地域に広がる笑顔の輪 ～南国の苺狩り～

株式会社 美らイチゴ



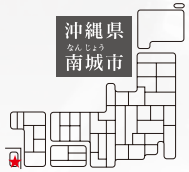
【学生受け入れ】新しい風が吹く

該当カテゴリー

インバウンド

雇用

企業・大学等との連携



〒901-0601　沖縄県南城市
玉城垣花 555
tel 098-948-1015
fax 098-948-1015
mail info@chura-ichigo.jp



【SNS 工夫】子どもたちも使える

概要

- 中古ハウスや遊休農地に新規グリーンハウスを建設し、いちごの栽培を開始。
- バリアフリー対応のイチゴハウスを観光農園として開園し、地元客や観光客、介護施設などからも需要が高い。
- ハウスに併設した選果場を利用し、いちごのパフェ・かき氷作りの体験ワークショップを実施。
- 閉園時も、イベントや観光地に出展し、継続的な雇用を創出。



【スムージー】イチゴをふんだんに使用し人気

成果

- 平成 29 年度に開園したいちご農園の来園者数は 3,000 人となり、売上は 260 万円。
- SNS 映えするような仕掛けを工夫し、来訪者が情報発信を行い、新たな集客に結びつくスタイルにつながっている。
- いちご狩りにより、地元客やインバウンドを含めた観光客が増加し、地域の活性化に貢献。

32

宮古島発アロエとヤギの持続可能な循環農業

しろう農園株式会社

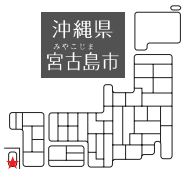


アロエベラ畑の除草にヤギを活用

ビジネス部門

6 次産業化

農村文化体験



〒906-0203 沖縄県宮古島市
上野字宮国 177-2
tel 0980-76-3546
fax 0980-76-3678
mail hiroshi@shirou-nouen.com



特殊製法で作られたアロエベラ 100% 原液



地元従業員でアロエを加工

概　要

- 日本最大規模でアロエベラを栽培し、生産されたアロエの新商品開発や EC サイト販売等で 6 次産業化を推進。
- ヤギにアロエ畑の除草管理をさせ、糞を堆肥にして畑に戻す無農薬循環型農業を行うとともに、ヤギとふれあえる観光牧園を開園。

成　果

- アロエ事業の売上高は、200 万円（平成 28 年度）から 1,700 万円に増加（令和元年度）。
- コロナ禍においても EC サイトでの売上やメーカーからの受注が好調であり、EC 販売は前年度比 2 倍以上の売上。
- 現在 10 名の地元出身者を雇用。今後さらなる地元雇用を検討。

37 未来へ紡ぐ小さな村の農福連携と沖縄シルク

グランプリ

株式会社 沖縄 UKAMI 養蚕



廃校を活用した養蚕の作業場

ビジネス・イノベーション部門
6 次産業化
荒廃農地対策
農福連携

沖縄県 今帰仁村

〒905-0423　沖縄県国頭郡
今帰仁村字平敷 267 番地 1・D 号
tel　0980-56-3367
mail　info@ukami.co.jp



フランスでの自社ブランド商品



荒廃農地を活用したキャッサバ畑（エリ蚕（神樹蚕）の餌）

概要

- 6 次産業化により地域の生物資源「エリ蚕（神樹蚕）」から生産された沖縄シルクをスキンケア商品として加工し、ブランド化してフランスや中国にも進出。
- 養蚕と飼料生産に廃校と荒廃農地を活用するほか、養蚕施設の整備や飼料生産のための高齢者雇用、蛹と繭の選別のための農福連携など、地域の資源と人材を活用。

成果

- 商品売上は 400 万円（令和元年度）から 1,200 万円（令和 3 年度）に、荒廃農地の活用は 1.3ha（平成 29 年度）から 2.4ha（令和 3 年度）に増加。
- 絹産業の非繊維分野へ進出に加えて、高齢者の健康長寿と、就労支援事業所の利用による障がい者の活躍と所得向上にも貢献。

詳細は団体の HP から

38 残したい　伝えたい　やんばる農業と食とくらし

山原女性農業者の会



若手会員との加工講習会

コミュニティ部門
6次産業化
地産地消

沖縄県 名護市

〒905-0015　沖縄県名護市大南 1-13-11
沖縄県北部農林水産振興センター
農業改良普及課
tel　0980-52-2752



若手女性農業者とともに他地区へ視察



料理レシピ本・体験ミニガイド本

概要

- 沖縄本島北部地区の女性農業者等で構成され、農業経営の安定や若手農業者の育成等を実施。
- 島ヤサイ等の伝統食材・地域食や農産物活用法の伝承・継承活動、農泊関連活動も実施。

成果

- 新規就農者支援数については、年間9人（平成 28 年度）から 34 人（令和2年度）に増加。
- 島ヤサイ等の栽培方法やレシピをまとめた冊子や、地域の味や暮らしをまとめたガイドブックを発行。

28 地域と共に６次産業化

農業生産法人 有限会社 伊盛牧場

特別賞
横石 知二 委員
6次産業化賞





6次産業化によるジェラートやハンバーガー

ビジネス・イノベーション部門

- ６次産業化
- 地産地消
- 女性の活躍

沖縄県 石垣市

〒907-0024　沖縄県石垣市新川1583-65

tel 0980-87-0885

fax 同上



石垣の景観を活かしたジェラート店



女性従業員の活躍

概要

- 耕作放棄地も活用して、乳用牛を100%自家生産の牧草で育成。
- 廃用牛の精肉としての利用や、地元農家と連携し、規格外果樹を活用したジェラートやジャム製造などの6次産業化により、豊富な地域資源を最大限有効活用する取組の他、女性の活躍推進、石垣島の知名度向上への取組も実施。

成果

- 暑さに強い牛群改良により、平均乳量が1頭あたり2,000kg以上増加。
- 6次産業化により、店舗売上高が、約1.9億円（平成30年度）から約2.0億円（令和4年度）、来客数は、約20万人（平成30年度）から約29万人（令和4年度）に増加。

詳細は団体のHPから

29 障害者や親が安心して住める地域社会へ

社会福祉法人 みやこ福祉会



ポットファームシステムによるメロン栽培

コミュニティ・地産地消部門

- 農福連携

沖縄県 宮古島市

〒906-0013　沖縄県宮古島市平良字下里3107番地243

tel 0980-73-7770

fax 0980-74-2338

mail miya-gaku@cronos.ocn.ne.jp



作業効率・安全性を考慮した作業



レストラン太平山店内

概要

- 農福連携により、作業の容易性・安全性に配慮した設備を導入した葉菜類の水耕栽培、ポットファームシステムによるメロン栽培を実施。
- 地産地消に取り組み、収穫物はスーパーやホテル、学校給食等に提供する他、規格外品はグループ内のレストランで活用。

成果

- 低コスト栽培等の工夫により収益を伸ばし、障がい者の１月あたりの賃金は、約8.7万円（平成30年度）から約9.9万円（令和4年度）に増大。周年で安定的な生産体制の構築により、雇用の安定化を実現。
- レストラン内にキッズスペースを設置し、地域交流の場を生み出すことで、多様性のある地域づくりに貢献。

詳細は団体のHPから

29 高めよう　地域協働の力！

糸満市地域農地・水・環境保全管理協定運営委員会

（いとまんしちいきのうち・みず・かんきょうほぜんかんりきょうていうんえいいいんかい）



農道の草刈り作業に子供達もゴミ拾い

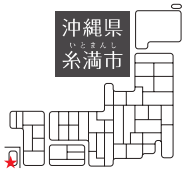
コミュニティ・地産地消部門

農業

環境保全

教育機関との連携

沖縄県 糸満市（いとまんし）



〒901-0392　沖縄県糸満市潮崎町1丁目1番

（糸満市役所　2F　経済部農村整備課内）

tel　098-894-6051

fax　098-894-6052



水路の土砂上げ作業



小学生への出前講座

概要

- 農地周辺や水路、土地改良施設の維持管理活動が課題。
- 活動組織を設立する以前は、土地改良区組合員（農家）のみでを行っていたが、多面的機能支払交付金の活用をきっかけに地域住民等の非農家を巻き込んだ活動になり、さらに企業団体の協力により教育機関や企業も活動に参加。県内大学と連携し、地元小学校への出前講座や生き物調査などのワークショップ等の幅広い活動を展開して次世代への農村環境教育及び地域文化の伝承に貢献。

成果

- 沖縄県では赤土等の海への流出が水質汚濁を引き起こし、生態系等へ影響を及ぼしていることから、糸満市赤土等流出防止対策地域協議会と連携し、農地からの赤土流出防止のため、グリーンベルトを設置し、環境保全に取組む。
- 地域の農道や排水路のゴミ拾いに子供会や小学校が参加することで、農村の振興について考える機会が増加。また、糸満市内全域約2万8千世帯へ広報誌を配布し、共同活動の普及啓発を推進。

30 農業は永遠の課題、人を動かす（考え方、体、心）

島袋　みさえ

（しまぶくろ）



人参収穫体験

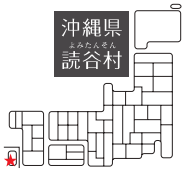
個人部門

農業

6次産業化

食育・教育

沖縄県 読谷村（よみたんそん）



〒904-0301　沖縄県中頭郡読谷村座喜味77番地

島袋農園

tel　080-2717-5275

fax　098-958-2258

mail　ninnjinn.te30@gmail.com



規格外品を使った6次化商品（人参ゼリー）



SDGs サミット 講演

概要

- 農業には人を動かす力がある。農業への関心は低く、規格外の野菜の利用など課題がある。また、沖縄の土壌は他県の土壌と比較すると保水力・保肥力が低い。
- 地産地消の取組（情報発信）、家族や仲間とのコミュニケーションの場となる農業体験を通じて、地産の野菜（ニンジン、イモ等）の消費拡大、農業への関心向上、食育に取組む。また、沖縄科学技術大学院大学のスタートアップ企業が開発したEFポリマーを畑に施用。

成果

- 令和5年度の農業・収穫体験者数は1,130人。また、規格外のニンジンや山芋を活用した商品開発を実施。試験販売では、人参ゼリー200個、山芋パイ800個を完売。
- 畑にEFポリマーを施用したことで、保水力、保肥力が向上し、生産量が20％増加。「みんなでSDGsサミット 2022 in Yomitan」において、農業が排出する二酸化炭素の減少、地球温暖化防止に役立つことについて発表。

30

海ぶどうで新たな価値を地域と共に創造！

特別賞
三國 清三
体験でつなぐ海の恵み賞

株式会社日本バイオテック

沖縄県糸満市

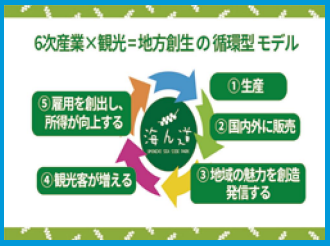
ビジネス・イノベーション部門 ＞ 6次産業化 ／ 雇用 ／ 農福連携



女性・高齢者・就労支援、誰でも活躍できる環境を



6 次産業化推進による売上向上・雇用の創出



持続可能な沖縄水産業のモデルケースを作る

概要

- 沖縄・糸満で海ぶどうの陸上養殖から始まり、地域資源を活用した体験型観光施設として成長。地域活性と地元雇用の創出を目的に、女性・高齢者、障がい者を積極的に雇用し、6 次産業化によって地域と共に新たな価値の創造を目指している。
- 養殖だけでなく、海ぶどうの収穫体験、塩作り、サバニ体験など多様な観光コンテンツを提供。さらに規格外品を活用した商品開発や就労支援施設と連携した農福連携など、地域と一体となった複合型の体験施設運営を展開している。

成果

- 6 次産業化によって売上は令和 6 年度に 2.5 億円を超えるまでに成長し、賞味期限が 2 年間の塩水海ぶどうを開発したことにより、海外 15 ヵ国への輸出が実現した。「シーキャビア」として国内外からの注目が高まり、観光と水産の両面で経済効果を生んでいる。
- デジタル化や省人化により、多様な人材が働ける環境を整備。持続可能な養殖と地域循環型雇用モデルが確立されつつあり、地域に根差した水産業の未来を示している。

海ぶどう農園 海ん道～ uminchi ～（(株) 日本バイオテック）〒901－0362　沖縄県糸満市真栄里1931番地
tel 098-994-0016　fax 098-994-0400　mail kouhou@uminchi.com

詳細は団体の HP から